

15. 留学について

Q58 大学在学中に留学経験（3週間以上）はありますか [択一]

大学在学中に留学経験（3週間以上）が「ある」と回答した学生は5.9%で、「ない」と回答した学生は93.0%であった。全体的に留学した人数が少ないという現状である。「ある」に関して、男子学生では4.2%、女子学生では8.2%であり、留学経験のある女子学生は男子学生のおよそ2倍ということが分かった。

2010年度における大学在学中に留学経験の「ある」学生は3.3%、2015年度は5.9%であるから、およそ横ばい状態である。

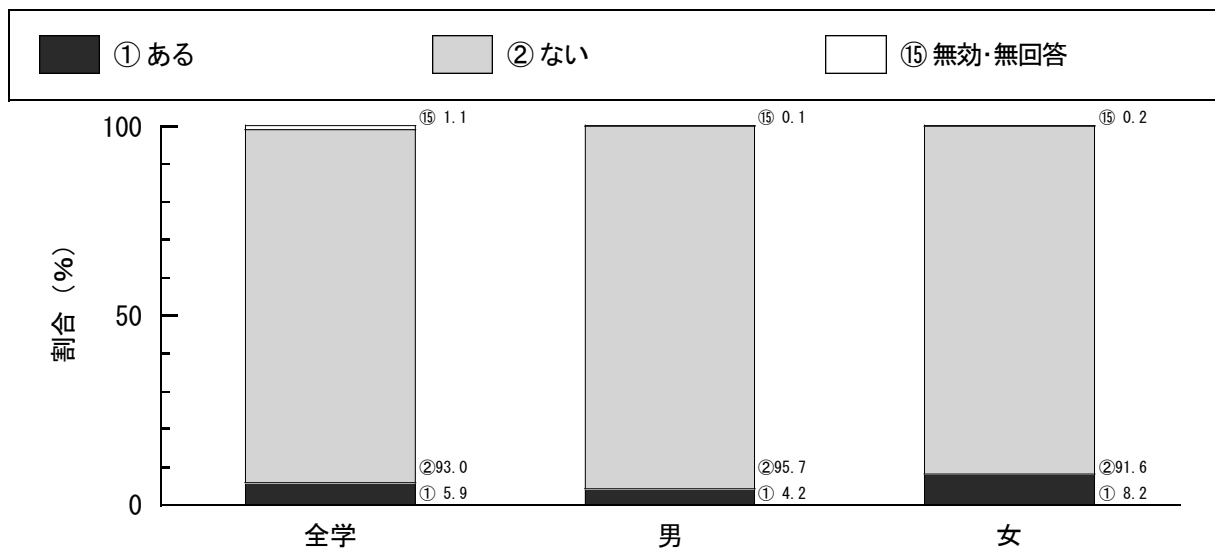


図 15-1-a Q58 の集計結果 (全学・男・女別)

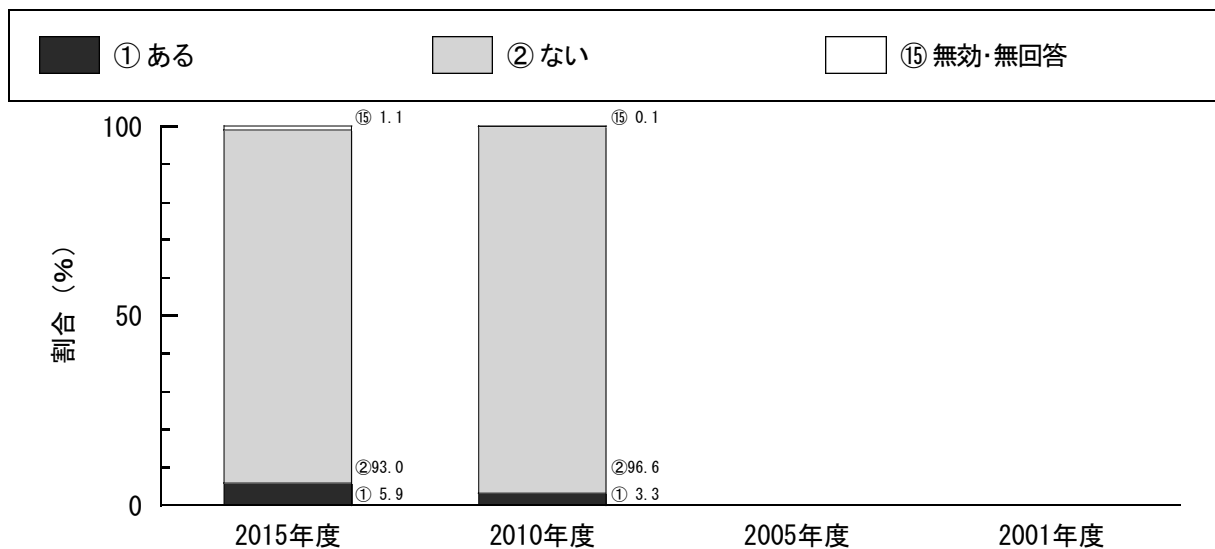


図 15-1-b Q58 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q58-SQ1 どのような留学ですか [択一]

留学内容に関して、最も多かったのは「3ヶ月未満の山口大学主催の語学留学」で56.9%、次いで「3ヶ月未満の私的な語学留学」の23.9%という結果であった。「3ヶ月未満の山口大学主催の語学留学」をした男子学生は62.8%に対して、女子学生は53.9%と男子学生の方が高くなっている。「3ヶ月未満の私的な語学留学」をした男子学生は20.0%に対して、女子学生は25.0%と女子学生の方が高くなっている。また「3ヶ月以上の私的な留学」に関しては男子学生の方が、「3ヶ月以上の山口大学協定校への交換留学」に関しては女子学生の方がそれぞれ高くなっていた。

「3ヶ月未満の山口大学主催の語学留学」に関して、2010年度は51.0%であったのに対し、2015年度では56.9%と増加していた。一方で、「3ヶ月以上の私的な留学」と「3ヶ月以上の山口大学協定校への交換留学」に関しては2010年度より減少していた。「3ヶ月未満の私的な語学留学」に関しては、年度間の相違はみられない。

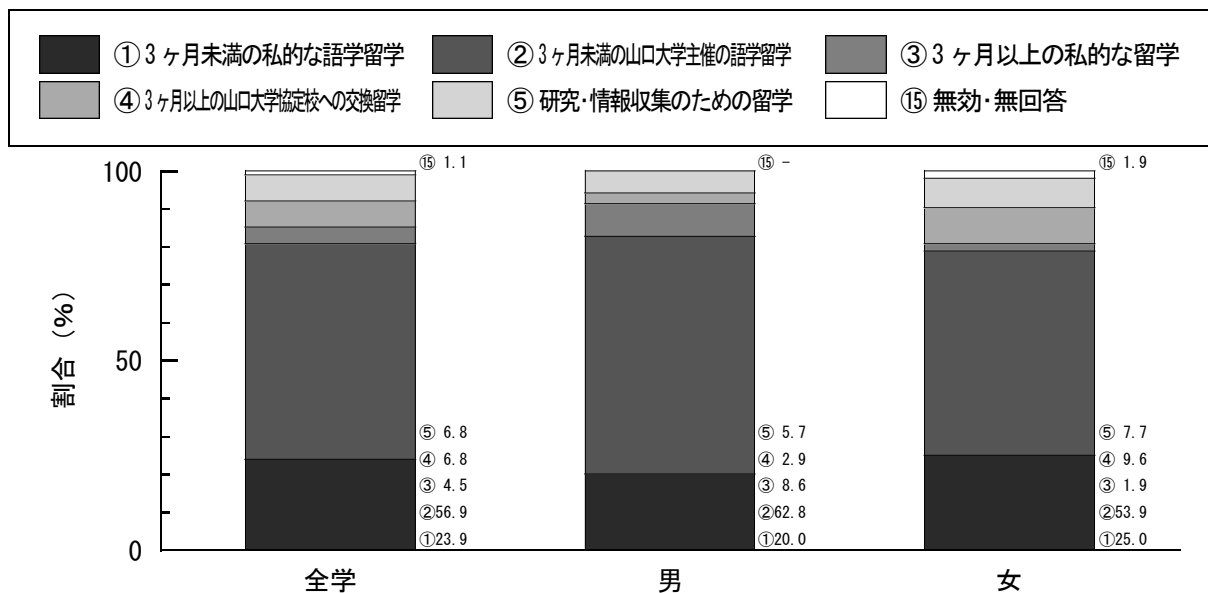


図 15-2-a Q58-SQ1 の集計結果 (全学・男・女別)

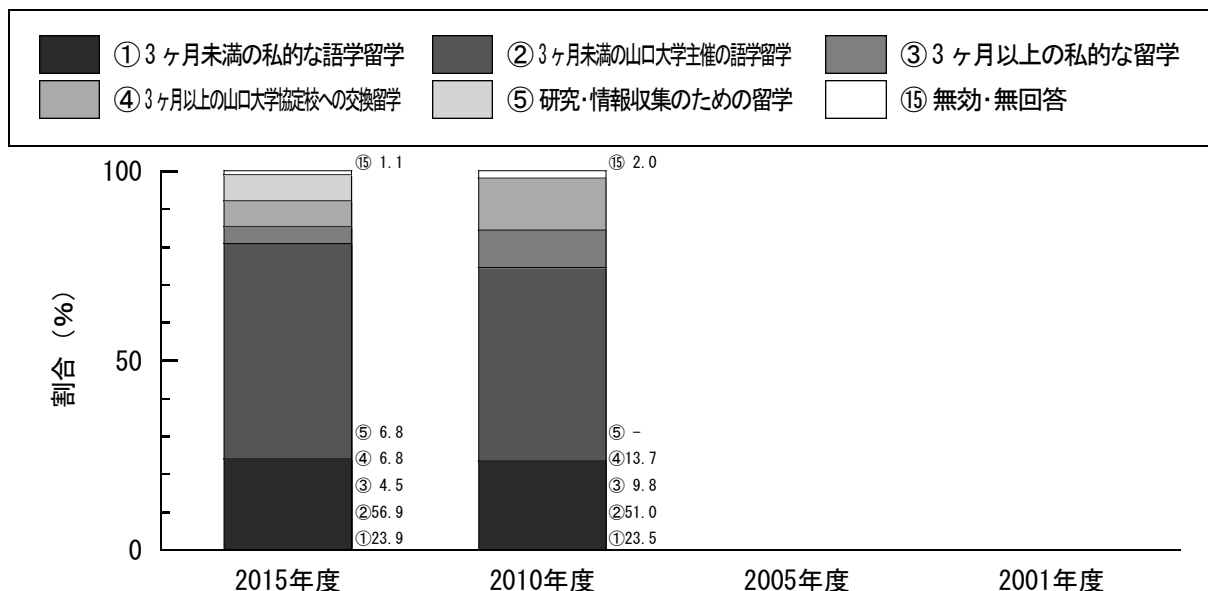


図 15-2-b Q58-SQ1 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q59 留学への興味はありますか [択一]

留学への興味に関して、「強く行きたい」と回答した学生は19.8%、「どちらかと言えば行きたい」が31.1%であった。これらは留学への興味に関する「肯定的意見」であり、合計すると50.9%となる。一方で「否定的意見」である「あまり行きたくない」12.3%と「全く興味がない」13.6%の合計値は25.9%であった。肯定的意見のほうが高い。「肯定的意見」に関して、男子学生は48.0%に対して女子学生は55.8%であるから、女子学生のほうが高い。一方で「否定的意見」に関しては、男子学生27.9%、女子学生24.2%であるからそれほど大きな差異はない。ただし「全く興味がない」に関しては男子学生の方が女子学生よりも高い。

2010年度における「強く行きたい」は14.5%、2015年度では19.8%であり、増加している。「全く興味がない」学生は2010年度では19.5%に対して、2015年度では13.6%であるから、減少している。

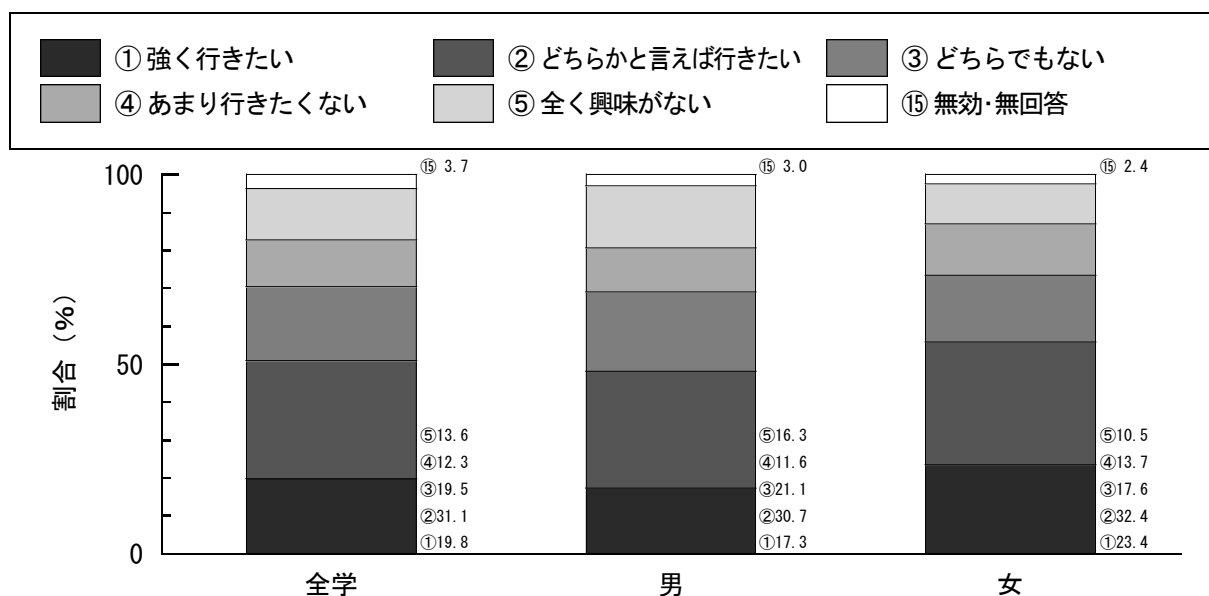


図 15-3-a Q59 の集計結果 (全学・男・女別)

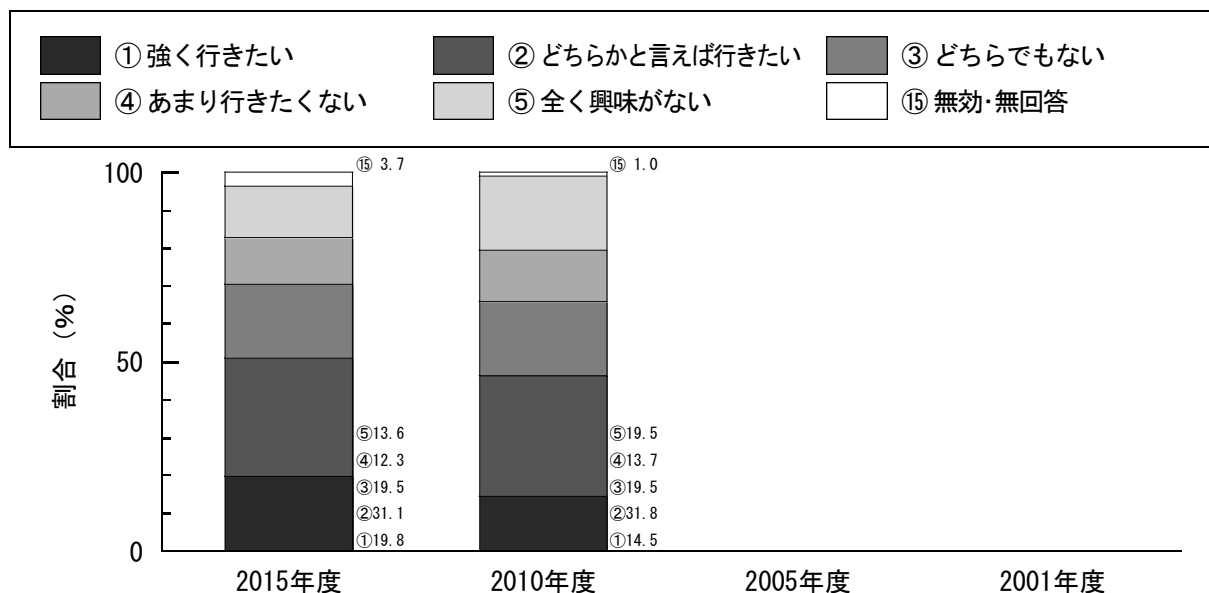


図 15-3-b Q59 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q59-SQ1 留学をためらう最大の要因は次のどれですか〔複数選択可〕

留学をためらう最大の要因について、「語学力が不足している」が最も高く 58.7%であり、次いで「費用がかかりすぎる」52.6%であった。これらは共に50%を上回っている。また「興味がない」も42.3%と少なくなかった。男子学生では選択結果の順序が全学と同じであった。一方で女子学生では上位2つの順序は全学と同じであったが、その次は「海外の治安・安全に不安がある」で42.9%を示した。女子学生が治安や安全を意識していることがうかがえる。

2010年度と2015年度とを比較すると、その値にやや違いはあるものの、上位の順序は同じであった。

表 15-1-a Q59-SQ1 の集計結果 (全学・男・女別)

	全学	男	女
語学力が不足している	58.7	57.1	60.4
費用がかかりすぎる	52.6	50.6	55.2
卒業が遅れるかもしれないという不安	17.9	12.4	26.0
手続きが煩雑	21.3	21.5	20.8
情報が不足している	13.8	15.0	11.7
海外の治安・安全に不安がある	34.6	29.2	42.9
海外生活ができるかどうか不安である	30.8	29.6	32.5
専門性が異なる	9.0	7.3	11.0
興味がない	42.3	48.9	31.8
その他	3.6	3.9	3.2

表 15-1-b Q59-SQ1 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

	2015年度	2010年度	2005年度	2001年度
語学力が不足している	58.7	64.1		
費用がかかりすぎる	52.6	57.1		
卒業が遅れるかもしれないという不安	17.9	18.6		
手続きが煩雑	21.3	19.2		
情報が不足している	13.8	16.9		
海外の治安・安全に不安がある	34.6	27.3		
海外生活ができるかどうか不安である	30.8	37.1		
専門性が異なる	9.0	11.4		
興味がない	42.3	42.7		
その他	3.6	2.0		

Q60 大学主催の短期語学研修や協定校との交換留学制度について知っていますか [択一]

大学主催の短期語学研修や協定校との交換留学制度について、「知っている」学生は41.1%、「聞いたことはあるがよく知らない」は36.3%、「知らない・聞いたことがない」は21.4%であった。全学生の77.4%は、多少なりとも大学主催の短期語学研修や協定校との交換留学制度について知っているという結果であった。「知っている」に関して、男子学生は37.4%であるのに対して女子学生は47.1%であり、女子学生の方が高い結果であった。反対に「知らない・聞いたことがない」に関しては、男子学生26.0%、女子学生15.7%と、男子学生の方が高い。

2010年度において「知っている」は31.8%であったが、2015年度では41.1%であり増加している。反対に「知らない・聞いたことがない」に関しては、2010年度31.8%、2015年度21.4%と減少している。大学主催の短期語学研修や協定校との交換留学制度の認知度が向上していると言ってよいだろう。

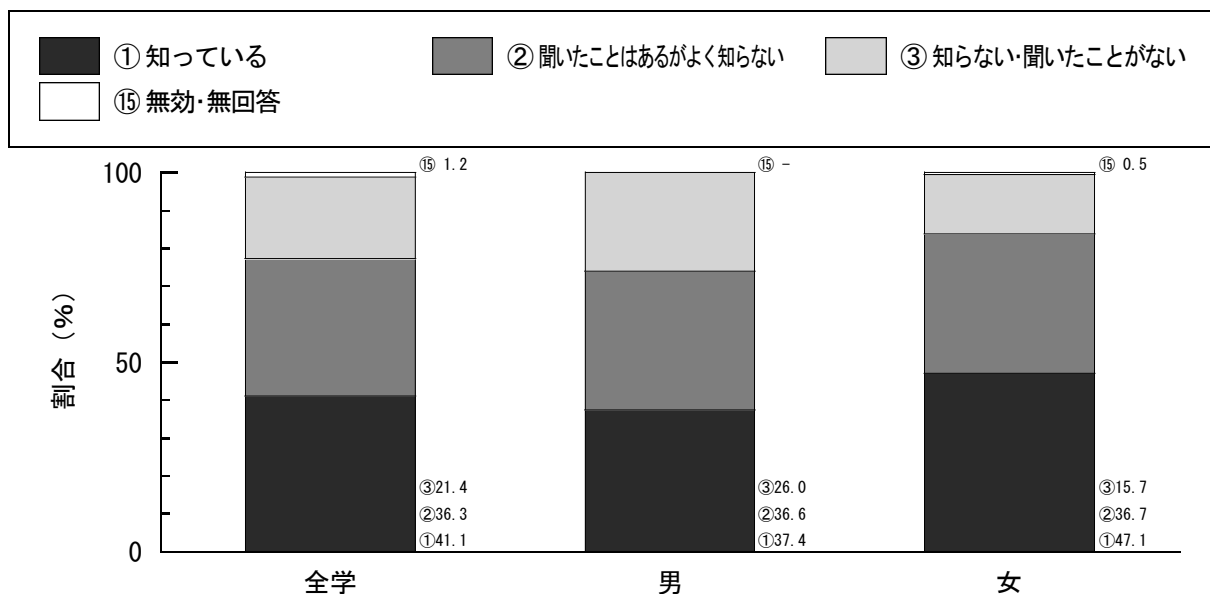


図 15-4-a Q60 の集計結果 (全学・男・女別)

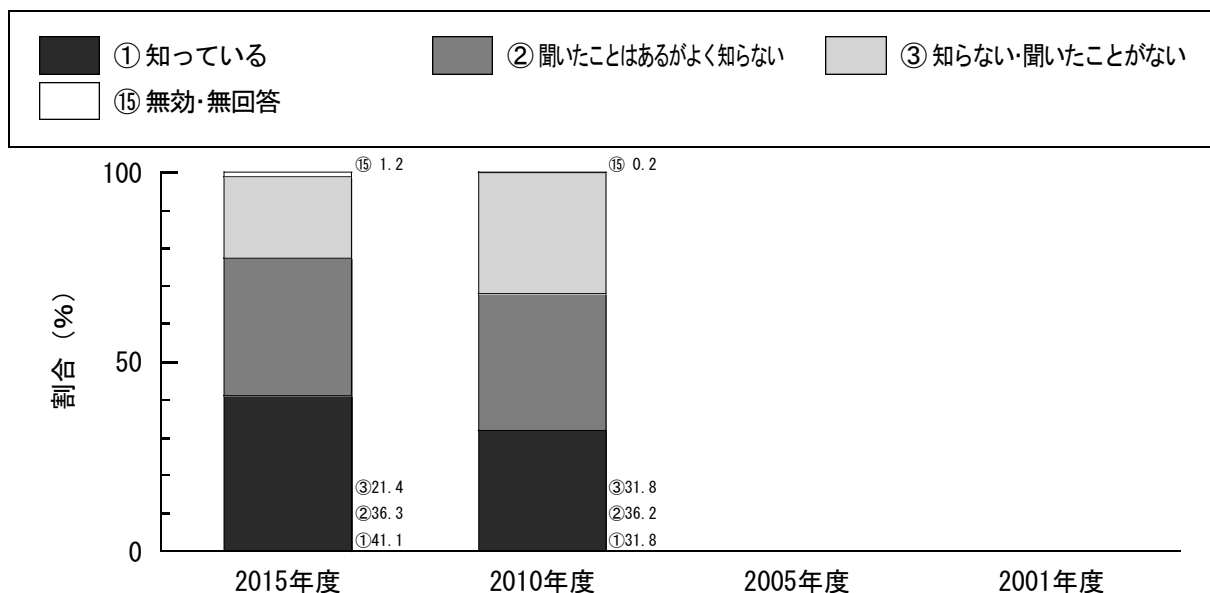


図 15-4-b Q60 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q61 留学先として興味のある国・地域があれば書いてください

「留学先として興味のある国・地域があれば書いてください」に関して、国名を記入した学生は第1希望と第2希望にそれぞれ803人と640人（のべ1443人）、地域名を記入した学生はのべ121人、いずれにも分類できないものを記入した学生はのべ10人であった。

記入された地域は、「アジア」、「大洋州」、「北米」、「中南米」、「欧州」、「中東」、「アフリカ」の計7つに再区分し、国名の記入に関しても上記7つの区分に分類した。ただし「欧米」という記入に関しては、上記7つの区分における「北米」と「欧州」の両者を意味しているため、「他」に分類することとした。なお表における割合は、のべ総合計1574人に対する、第1希望と第2希望ののべ合計の割合を100分率にて示している。第1希望および第2希望ともに最も高いのは「欧州」で、次いで「北米」であった。それぞれの割合は38.3%、30.9%で、この両方で69.2%と3分の2以上を占めている。「大洋州」と「アジア」はそれぞれ15.9%、13.0%で、この両者でおおよそ3分の1を占めている。「他」に関する記入は、「英語圏」、「欧米」、「開発途上国」であったが、いずれも1%に満たない割合である。

上記のように国名を記入した学生はのべ1443人であり、国名の内訳に関する表の割合はこの1443人に対する第1希望と第2希望ののべ合計の割合を100分率にて示している。国名の記入において最も高かったのは「アメリカ合衆国」で23.9%、次いで「英国」16.7%、「オーストラリア連邦」15.3%であった。いずれも英語圏の国である。その他の希望の高い国として、5%を上回っている「カナダ」や「ドイツ連邦共和国」があげられる。

表 15-2-a Q61 の記入区分状況

記入区分	第1希望	第2希望	合計
国	803	640	1443
地域	75	46	121
他	4	6	10
合計	882	692	1574

表 15-2-b Q61 の記入区分（地域・他）に関する内訳

地域・他	第1希望	第2希望	合計	割合(%)
【地域】				
アジア	103	102	205	13.0
大洋州	137	113	250	15.9
北米	288	199	487	30.9
中南米	2	4	6	0.4
欧州	341	262	603	38.3
中東	2	5	7	0.4
アフリカ	5	1	6	0.4
【他】				
英語圏	2	2	4	0.3
欧米	1	2	3	0.2
開発途上国	1	2	3	0.2
合計	882	692	1574	

表 15-2-c Q61 の記入区分 (国) に関する内訳

地域・他	第1程	第2程	合計	割合(%)
【アジア】				
インド	2	3	5	0.3
インドネシア共和国	1	4	5	0.3
カンボジア王国	1	1	2	0.1
シンガポール共和国	10	14	24	1.7
大韓民国	10	11	21	1.5
台湾	13	11	24	1.7
タイ王国	10	9	19	1.3
中華人民共和国	14	7	21	1.5
ネパール連邦民主共和国	1		1	0.1
フィリピン共和国	25	20	45	3.1
ベトナム社会主義共和国	1	3	4	0.3
香港		2	2	0.1
マレーシア	7	4	11	0.8
【大洋州】				
オーストラリア連邦	123	99	222	15.3
グアム(米)		1	1	0.1
トンガ王国	1		1	0.1
ニューカレドニア(仏)	1		1	0.1
ニュージーランド	11	11	22	1.5
【北米】				
アメリカ合衆国	212	134	346	23.9
カナダ	74	63	137	9.5
【中南米】				
エクアドル共和国		1	1	0.1
チリ共和国	1		1	0.1
ブラジル連邦共和国		1	1	0.1
ベネズエラ・ボリバル共和国	1	1	2	0.1
【欧州】				
アイルランド	1	2	3	0.2
イタリア共和国	20	18	38	2.6
ウクライナ	1	1	2	0.1
オランダ王国	2	5	7	0.5
ギリシャ共和国		1	1	0.1
サンマリノ共和国	1		1	0.1
スイス連邦	6	3	9	0.6
スウェーデン王国	1	6	7	0.5
スペイン	6	4	10	0.7
デンマーク王国	2	3	5	0.3
ドイツ連邦共和国	62	46	108	7.5
ノルウェー王国		2	2	0.1
パチカン市国		1	1	0.1
ハンガリー	1		1	0.1
フィンランド共和国	5	8	13	0.9
フランス共和国	28	33	61	4.2
ベルギー王国	1		1	0.1
マルタ共和国		1	1	0.1
ロシア連邦	2	1	3	0.2
英国	141	102	243	16.7
【中東】				
トルコ共和国	2	2	4	0.3
【アフリカ】				
エジプト・アラブ共和国	1		1	0.1
ケニア共和国		1	1	0.1
マダガスカル共和国	1		1	0.1
合計	803	640	1443	

Q62 大学主催の語学研修・交換留学プログラムと生協や旅行会社など民間が主催する語学研修・留学プログラムとではどちらに興味がありますか [択一]

「大学主催」の語学研修・交換プログラムに興味のある学生は48.4%であり、「民間主催」3.9%と比較すると、はるかに「大学主催」のものに興味を持っていることがわかる。一方で半数近くの45.4%の学生は「どちらともいえない」と回答した。「大学主催」に関して、男子学生は45.3%であるのに対して女子学生は53.9%であり、女子学生の方が高い結果であった。「どちらともいえない」に関しては、男子学生49.7%、女子学生41.1%と男子学生の方が高い。

2010年度と2015年度との間における相違はほとんどみられない。

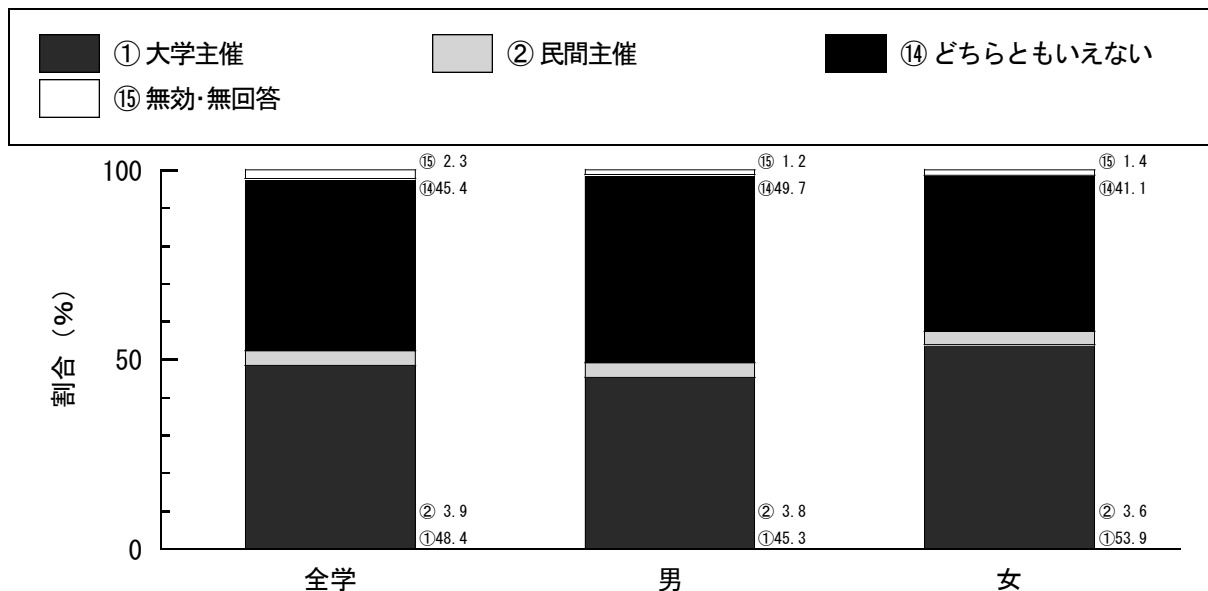


図 15-5-a Q62 の集計結果 (全学・男・女別)

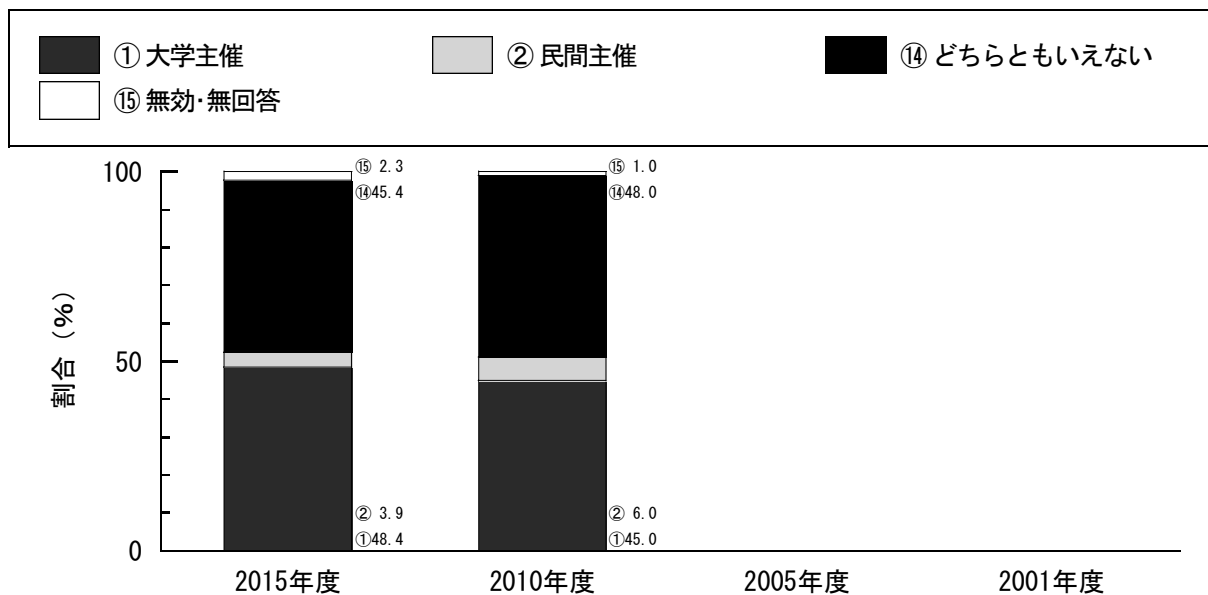


図 15-5-b Q62 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q63 (語学研修・交換留学プログラムを選択する際の) その主な理由は何ですか [択一]

留学を決める際に重要となる要素に関して、「安心度」をあげる学生が 30.6%と最も多く、次いで「費用」17.8%、「情報の量」17.5%であった。「単位化の有無」は最も少なく 5.8%であった。海外留学の安心度を学生たちが重視しているが、単位認定には関心が低いことがわかった。男子学生の「安心度」は 28.8%であるのに対して、女子学生は 34.0%と、女子学生の方が高い。すなわち女子学生の方がより「安心度」を求める傾向にあることがわかる。一方で「情報の量」に関しては、男子学生 19.8%、女子学生 14.8%と男子学生の方が高いという結果であった。

2010 年度と 2015 年度との間における相違はほとんどみられない。

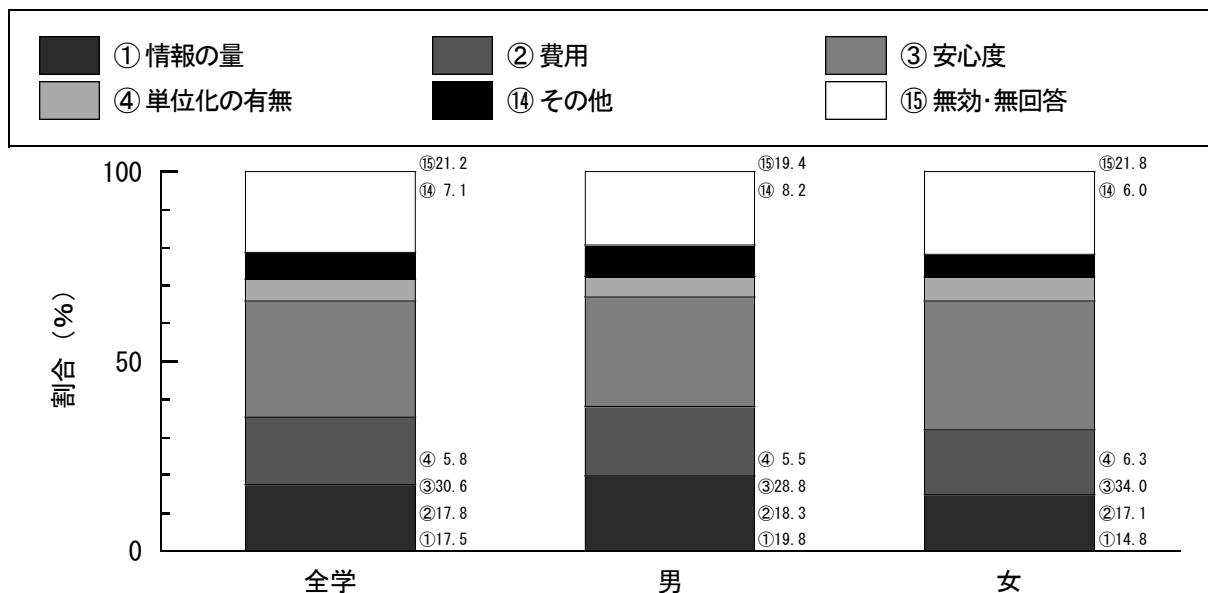


図 15-6-a Q63 の集計結果 (全学・男・女別)

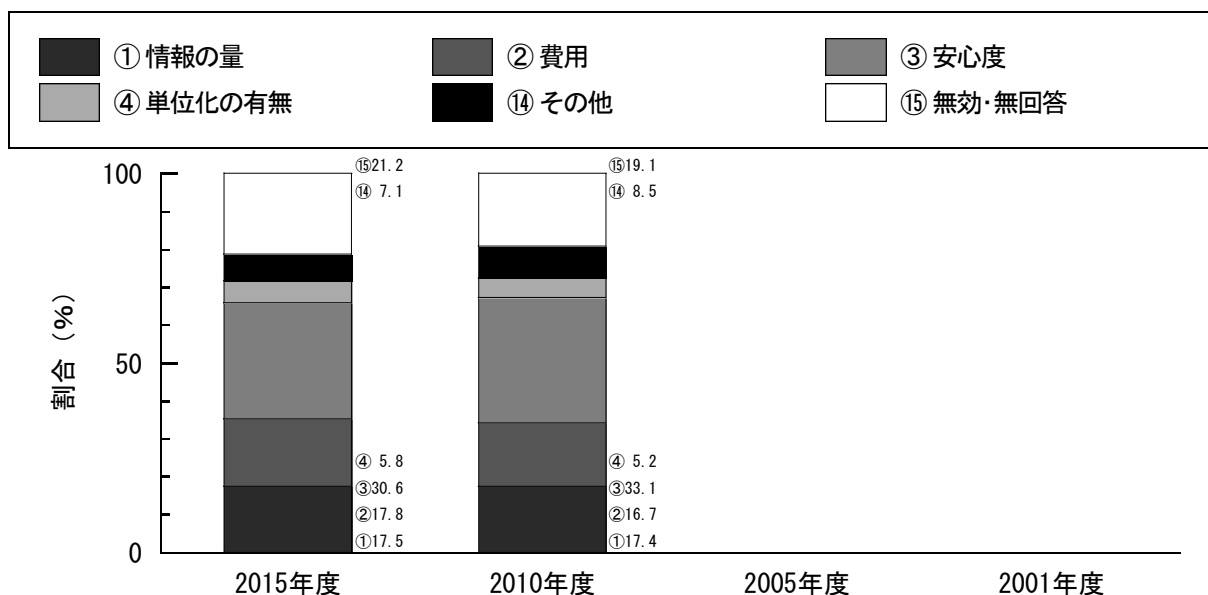


図 15-6-b Q63 の集計結果 (全学に関する調査年度別)